

経営学部 リフレクションペーパー

2022年度 <前期>

教員氏名 大内 秀二郎
担当授業科目名 流通システム論Ⅰ（火曜2限・木曜6限の2クラス開講） 商学A（火曜5限、商学科1年a・bクラスの商業パートを担当）
1. アンケート結果に対する総評 「この授業を受けて良かったと思いますか」という設問に対して、商学A〔aクラス〕が8.3、商学A〔bクラス〕が8.6、流通システム論Ⅰ〔火曜クラス〕が8.6、流通システム論Ⅰ〔木曜クラス〕が9.0であり、昨年度とほぼ同様であった。おおむね高い評価を得られたと考えている。なお、流通システム論Ⅰについて、昨年度は回答率が非常に低かったことから、今年度は授業時間を割いて授業中に回答するように指示をした。その結果、火曜クラスでは17.0%から35.0%へ、木曜クラスでは8.4%から20.7%へと回答率の改善がみられた。ただし、授業出席者でも教員の指示にもかかわらず回答に協力してくれない者も散見された。
2. 授業を行う上で工夫した点、良かった点 流通システム論Ⅰは昨年度までのオンデマンド（非同期）形式から今年度は対面形式の授業に戻ったが、コロナ罹患等による欠席者が多くなることを想定し、流通システム論Ⅰ・商学Aともに、授業はすべて録画して欠席者向けにGoogle クラウドで配信した。また、昨年度と同様にSEやイラストをスライドショーに挿入したり、映像資料を多く用いたりするなどの工夫をこらした。SEについては、「効果音が面白い」「効果音とかあって目が覚める」「効果音が邪魔」など学生の反応はさまざまであった。加えて、講義内容に関連するアンケートを授業中に実施するなど、“授業を視聴している”ではなく“授業に参加している”という感覚を受講者に与えることを心がけた。これについては受講者からは好評であった。
3. 今後の改善点 授業がオンラインから対面に戻り、「質問や意見に教員は適切に対応してくれましたか」という設問についての改善が見られるかと期待していたが、回答結果は昨年度とあまり変わらなかった。授業後に学生から質問を受けることも何度かあったものの、むしろ欠席関連の対応（欠席届の受領、欠席事由のユニパへの登録・修正など）に多くの時間が費やされ、質問をしたい学生が遠慮なく質問しにくい状況が生じていたように思われる。学生が心理的なハードルを感じることなく気軽に質問できるような仕組みづくりに加えて、欠席関連の手続きのシステム合理化（例えば学生センターが欠席届を発行すると、当該学生が受講している科目の担当者に自動的に欠席届が配信される、ユニパにも自動的に欠席に関する情報が登録される、など）も必要ではないかと感じた。
4. 学生へのメッセージ アンケートへのご協力、ありがとうございました。今年度の授業は対面になりましたが、今後も対面とオンラインの良いところを組み合わせたいような授業設計を図ります。